

ブラウン管より愛をこめて —宇宙人と異邦人—

観劇の参考に資料をご用意いたしました。

観劇前にお読みになっても

作品を楽しんでいただくのに問題はありません。

ただ、一部作品の内容と関わっている部分もございます。

全く前情報なしでご覧になりたいお客様にはお勧めできません。

ご了承ください。

◆ 参考文献 ◆ ◆ 用語集 ◆

参考文献

『ブラウン管より愛をこめて—宇宙人と異邦人—』の執筆・構想に際し、以上の書籍を参考にいたしました。

作者・編者及び著作権保持者に心より厚く御礼を申し上げます。

- 『怪獣使いと少年 ウルトラマンの作家たち 金城哲夫・佐々木守・上原正三・市川森一』 切通理作
『ウルトラマンに夢見た男たち』 実相寺昭雄
『ウルトラマン誕生』 実相寺昭雄
『星の林に月の舟—怪獣に夢見た男たち』 実相寺昭雄
『ウルトラマン昇天—M78星雲は沖縄の彼方』 山田輝子
『セブンセブンセブン アンヌ再び』 ひし美ゆり子
『アンヌ今昔物語 ウルトラセブンよ永遠に』 ひし美ゆり子
『ノンマルトの使者—金城哲夫シナリオ傑作集』 金城哲夫
『ウルトラマンになった男』 古谷敏
『ウルトラマン創世記』 桜井浩子
『桜道—「ウルトラマン」フジアキコからコーディネーターへ—』 桜井浩子
『ウルトラマン青春記』 桜井浩子
『日本特撮トンデモ事件簿』 桜井顔一+満月照子
『「ウルトラセブン」の帰還』 白石雅彦
『「帰ってきたウルトラマン」の復活』 白石雅彦
『キジムナーkids』 上原正三

用語集

※劇中に登場する架空の事柄に関しても説明をしています。

一般名詞

特撮 特殊技術撮影の略称。元々は特殊撮影やトリック撮影と呼ばれる「技術」を総合的に指す言葉だった。カメラ撮影技術を駆使した合成、ミニチュア造形物の使用、そして着ぐるみを使用した巨大怪獣などを映像化する技術全般のことである。日本では特撮作品と呼ばれる映画やテレビ番組等が大きなジャンルを形成するまでに発展している。フィルム撮影時代は、本格的な特殊撮影を使った映画・テレビドラマは珍しく、高度な技術とばく大な予算を必要としていた。

監督と特撮監督 特撮番組の撮影では、特撮のないドラマ部分を本編と呼称することもあった。そして、本編と特撮は分かれて撮影されることが多い。「監督」は本編部分の責任者であり、逆に特撮部分の責任者は特撮監督や特技監督と呼ばれた。一人が両方の監督を兼ねた例も存在している。

トレンディドラマ 1980年代後半から1990年代前半のバブル景気時に制作された日本のテレビドラマの一部を指して使われる言葉だが、明確な定義はない。多くは都会を生きる男女の恋愛やトレンドを描いた現代ドラマである。バブル崩壊以降はほとんど死語となった。

プロット 脚本作成の前準備として作成される細かいあらすじ。セリフを書かずに物語の展開を説明するものが一般的。

ト書き 台本でセリフ以外の登場人物の行動等を指示する文章。語源は歌舞伎の台本であり、「ト両者歩み寄る」など「ト」で書き始められたことに由来する。

カンヅメ 作者を一定環境に閉じ込め、作業に集中させる状態。缶詰めや館詰めと表記されることも。古くは売れっ子の小説家や漫画家が旅館等にカンヅメにされた。現在でもまれにこれを希望する劇作家がいるらしい(※作者は実際にそんな話を聞いたことがある)。

怪獣の縫いぐるみ 現在では着ぐるみという表現が一般的。「ゴジラ」シリーズの現場で「縫いぐるみ」が多用されたため、特撮怪獣＝縫いぐるみという図式ができあがった。

在日 日本在住の韓国・朝鮮にルーツを持つ人々の俗称。日韓併合から、第二次世界大戦の日本の敗戦、朝鮮半島の南北分離独立などの複雑な事情により日本で暮らすことになった人々がほとんどである。

同和地区 江戸時代以前から存在していた被差別民の多く暮らす地域の呼称。明治維新以降、「四民平等」の政策により、表面上は差別的な身分制度は廃止されたが、根強い差別が残り続け、水平社などの部落解放運動により差別の撤廃が強く求められてきた。第二次大戦後も部落解放同盟等の団体が、この運動を引き継いでいる。

固有名詞 ※全て架空の団体・番組です

東京特撮プロ（東特プロ） 1970年代後半、特撮の本家とも呼ばれる「丸川プロ」の社員数人が独立して立ち上げた、特撮番組専門の制作会社。比較的小規模な会社だが、堅実な番組作りで大ヒットはないものの、着実に地歩を獲得してきた。

ワンダーマン 1990年春のクールから始まった東特プロ制作の特撮番組。シリーズ通してのメイン監督は社員である松村和也。「ワンダーマン」という故郷を失った宇宙人が一人、地球をさまよいながら、様々な事件と遭遇し解決していく。60メートルの巨人に変身し、怪獣や宇宙人と格闘する。80年代以降、減少していた巨大ヒーローものの復権を狙ったが、視聴率は上がらず2クールで終了が決まっている。

ユーバーシリーズ（ユーバーマンシリーズ）

巨大特撮ヒーローの草分け的な存在。丸川プロ制作。シリーズ第一作の「ユーバーマン」は丸川プロ初のカラーテレビ対応番組でもあった。怪獣ブームを牽引し、当時の子供を夢中にさせ、社会現象とまで呼ばれたお化け番組。今なお、沢山のファンを獲得し、愛され続けているシリーズである。

1966年～1967年 ユーバーマン

1967年～1968年 ユーバースーパーベン

ここで第一次怪獣ブームが終焉し、数年間の休止を挟む。その後

1971年～1972年 ユーバーマンリターンズ

で復活。以降、72年～73年のユーバーマン α （アルファ）、73年～74年のユーバーマンイチロウへと引き継がれ、続編が生み出され続けてきた。ただ81年にテレビシリーズが休止されて以降、丸川プロは長くシリーズの制作を休んでいる。平成ユーバーマンシリーズが始まるのは1996年であり、劇中の1990年はユーバーシリーズの空白期である。